

郡山市

「“楽都”郡山」



郡山の「山」の小篆（しょうてん）文字を図案化したもので、藩政時代から郡山代官支配下「郡山」の標識として使用されてきたものです。

市の鳥はカッコウ、木はヤマザクラ、花はハナカツミ

郡山市は、福島県の中央に位置し、地理的条件の良さを生かしながら交通網の要衝として発展を続け、「人」「モノ」「情報」が行き交う交流拠点となり、経済県都と呼ばれています。

さらに、発展の礎となった安積開拓により農業・商業・工業がバランス良く発展し、観光としての魅力も併せ持っています。

また、2018年にセーフコミュニティ国際認証を取得し、2023年に再認証取得したところであり、2019年には内閣府から「SDGs 未来都市」に選定されるなど、“誰一人取り残されない”安全・安心な社会の実現に向け、地域社会全体で取り組んでいます。



ビッグアイと駅前広場



田村市

「ワクワクがとまらない

自然とチャレンジがいきるまち 田村市」



田村市の「田」をモチーフにして、緑豊かな自然にいだかれた高原都市として光り輝きながら限りなく発展するイメージを表現しています。

市の鳥はウグイス、木はナラ、花はツツジ

田村市は阿武隈高原のほぼ中央にある自然豊かで古い歴史と文化に彩られた高原都市です。

この美しい自然との暮らしと市民の絆を原動力に、ずっとワクワクできるまちを目指し、「働きたいまち」、「学べるまち」、「安心と絆のまち」、「住みたいまち」、「支えあいのまち」の5つの目標の実現に向けて協働する環境づくりを進めています。

また、有名な「あぶくま洞」をはじめとした鍾乳洞、山や川、滝など市を代表する観光資源の振興に加え、近年では昆虫の飼育・採集に適した土地という特徴を生かし、「昆虫の聖地」として様々なイベントや施策を展開しています。



あぶくま洞（滝根御殿）



三春町 いつまでも“ゆかしい”まち 三春



三春の「み」を円形に図案化したもので、円型は協同と団結を、横線は融和を、真ん中の線と空間は向上発展を希求する姿を表しています。
町の鳥はウグイス、木はシダレザクラ、花は松波

三春は、梅・桃・桜が一斉に咲き競うところから名付けられたといわれます。

城下町の面影を今も残す裏通り、商家の土蔵群は、「滝桜」にも劣らぬ町内各所の枝垂れ桜の名木群とともに、三春の新しい観光名所のひとつです。

楽しく歩ける街には、三春素麺や名物の三角油揚げを食べることができるお店、蔵を利用した食事処、カフェなどがあります。

三春町では、アウトドアアクティビティを活用したまちづくりに取り組んでいます。



三春の滝桜



小野町 「笑顔とがんばりの町」



小野町の頭文字「小」を図案化したもので、町の飛躍的な発展と町民融和と団結を表しています。
町の鳥はカッコウ、木はスギ、花はツツジ

小野町は、9世紀頃、小野篁（おののたかむら）が陸奥守（むつのかみ）として東下した折に開発され、「小野六郷」と総称したのがルーツといわれています。

例年4月中旬から下旬に見頃を迎える夏井千本桜は、「わたしたちの郷土を美しい桜の里に、そしてこの桜のもとに郷土の和合を」との願いを込め、夏井地区、南田原井地区の方々が夏井川の両岸5キロメートルにわたり、ソメイヨシノの苗木1,000本を植樹し、地域の皆さんで手入れや保存に力を注いでいます。

高原型の気候を生かしたミネラル野菜の栽培が盛んなほか、特産品やご当地グルメの開発にも力を入れています。「おのまち小町アイスバーガー」は、地元では知る人ぞ知る昔懐かしの味を、商工会青年部が工夫を凝らし、新たな名物として町内外に発信しています。



夏井千本桜



ご当地グルメ
「おのまち小町アイスバーガー」

